

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
国内観光地理 Domestic Tourism Geography		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(国内旅行業務取扱管理者試験必修)	無し
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
国内旅行実務Ⅰ、旅行関連法規、旅行業務総合演習				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
国内旅行実務Ⅰ、旅行関連法規、旅行業務総合演習				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
斎藤 清		火曜日、水曜日、木曜日		授業中に指示します
授業の概要				
観光の対象となる国内の観光地理・資源について、都道府県ごとに学ぶ。 また、国家試験である「国内旅行業務取扱管理者試験」にも対応する講義内容である。				
授業の目標				
①国家試験対策に必要な「国内観光資源」を主に学びながら、歴史や文化と関連させて各地域の観光資源（例：自然景観・温泉地・建造物・祭り・郷土料理・特産物など）の知識を修得出来るようにする。 ②国家試験合格レベルに達することが出来るようにする。				
授業の方法				
国家試験を見据えて、過去の試験問題を解き、また観光地の写真なども見ながら知識を深める。試験問題はパワーポイント化したデータを見ながら、順次正解を発表させるなど、クイズ形式的な方法も採り入れる。 国家試験合格のためには、講義以外の時間の自主的な学習も必要とされる。				
学習の成果（学習成果）				
観光地理・資源を学ぶことにより、日本の旅をより一層楽しむことが出来る。 旅行業務にとって必要不可欠な知識である観光地に関する知識を身に着けることが出来、最終的には国家試験にも合格することが出来る。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション（講義の進め方）			
第2回目	北海道の観光資源			
第3回目	東北の観光資源			
第4回目	関東・新潟の観光資源			
第5回目	甲信・中部・北陸の観光資源			
第6回目	近畿の観光資源			

第7回目	中国・四国の観光資源	
第8回目	九州・沖縄の観光資源	
第9回目	中間理解度チェックテスト	
第10回目	テーマ別学習（山岳・湖沼等）	
第11回目	テーマ別学習（温泉と鉄道最寄り駅等）	
第12回目	テーマ別学習（社寺・庭園/名園等）	
第13回目	テーマ別学習（祭り・年中行事等①）	
第14回目	テーマ別学習（祭り・年中行事等②）	
第15回目	世界遺産・国立公園等	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	授業で使われる教材を準備して臨んでいる。授業に集中し、必要なことはノートに取り、積極的に質問する。 S評価の基準：上記参加態度を全て満たす者。
レポート		
調査報告書		
小テスト	40%	都道府県別の学習（第8回目）が終了したら中間チェックテストを実施し、理解度を確認する。S評価の基準：S=90-100
試験	40%	テーマ別学習の内容に関して、その理解度を確認する。S評価の基準：S=90-100
発表内容（態度含む）		
その他	10%	基本的に毎時間学習した内容に関連する課題を出すので、翌週提出する事。 S評価の基準：上記課題をを全て提出し全て90点以上とること。
教科書と参考図書		
国内観光資源（JTB総合研究所）		
履修上の留意点・ルール		
3分の1以上欠席した場合は、理由の如何を問わず単位認定しない。 遅刻厳禁。私語は慎むこと。授業途中で無断退出厳禁。携帯電話使用禁止。飲食厳禁。		